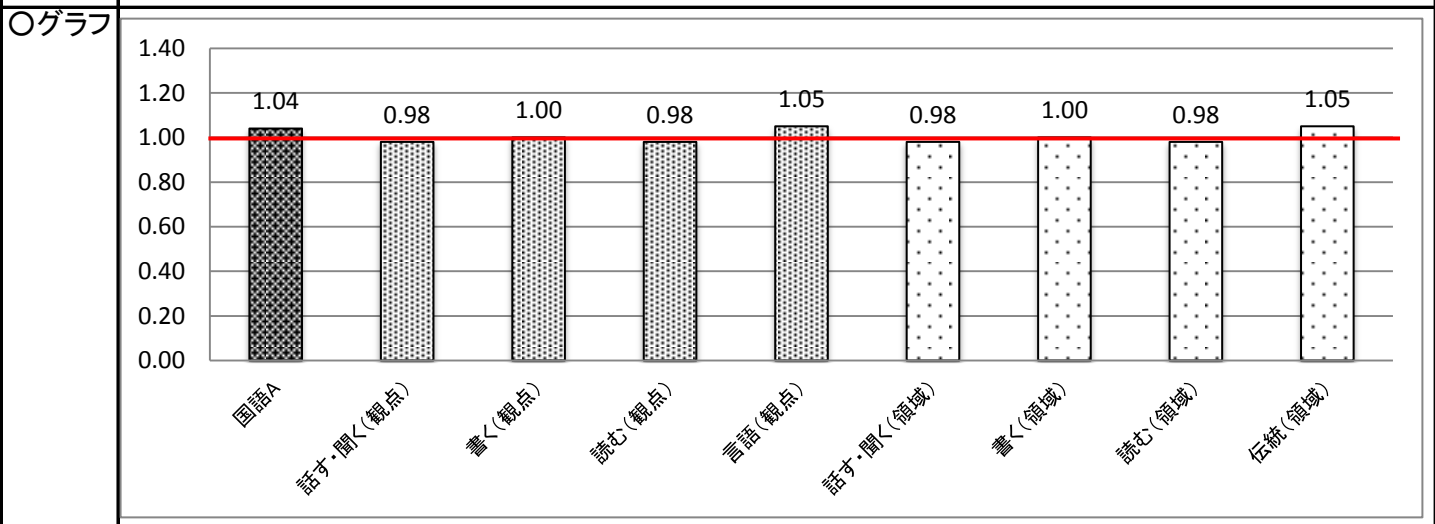


◆ 平成26年度 全国学力・学習状況調査結果 《小学校・国語科》 ◆

■調査結果の概要

A問題(主として「知識」に関する問題)の結果	
○全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、1.04で、全国平均正答率を上回っている。(佐賀市75.8)(全国72.9)</li> </ul>
○評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>「書く能力」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、1.00で、全国平均正答率と同等である。(佐賀市72.2)(全国72.2)</li> <li>「言語についての知識・理解・技能」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、1.05で、全国平均正答率を上回っている。(佐賀市77.6)(全国73.7)</li> </ul>
○内容・領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>「書くこと」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、1.00で、全国平均正答率と同等である。(佐賀市72.2)(全国72.2)</li> <li>「伝統的な言語文化等国語の特質に関する事項」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、1.05で、全国平均正答率を上回っている。(佐賀市77.6)(全国73.7)</li> </ul>

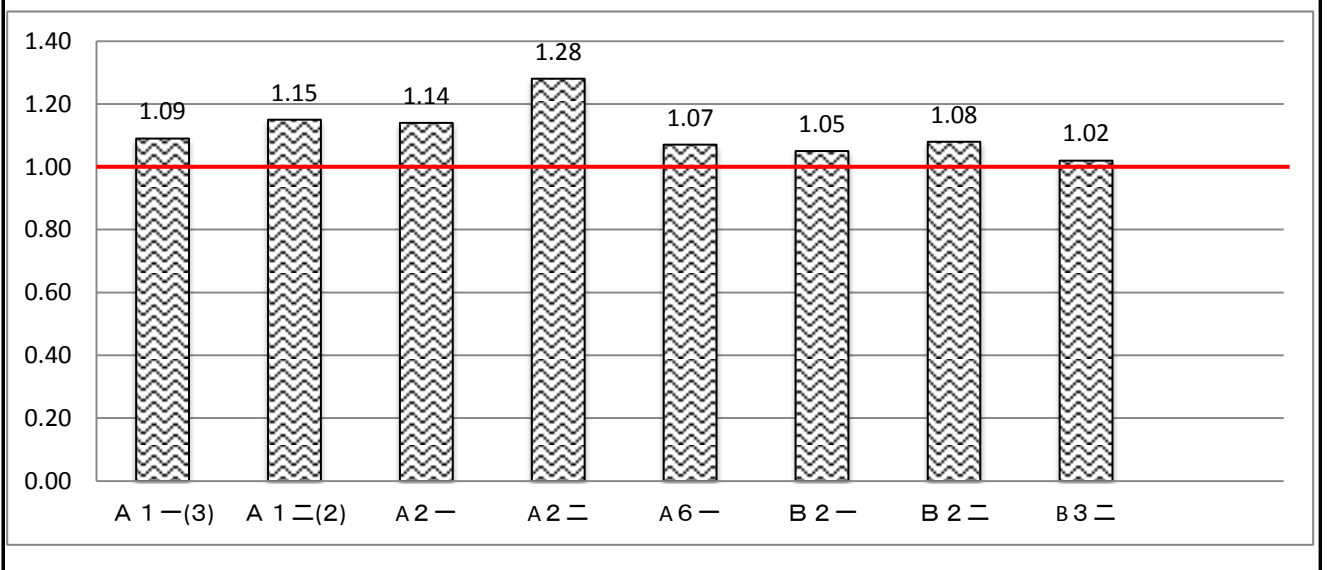


B問題(主として「活用」に関する問題)の結果																							
○全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.99で、全国平均正答率を下回っている。(佐賀市54.8)(全国55.5)</li> </ul>																						
○評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>「国語への関心・意欲・態度」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、1.00で、全国平均正答率と同等である。(佐賀市34.4)(全国34.4)</li> <li>「書く能力」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、1.00で、全国平均正答率と同等である。(佐賀市34.4)(全国34.4)</li> <li>「読む能力」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、1.00で、全国平均正答率と同等である。(佐賀市57.3)(全国57.3)</li> <li>以上、3観点に比べ、「話す・聞く」については、佐賀市の平均正答率の割合は、0.96で全国よりわずかに低い。(佐賀市49.0)(全国51.2)</li> </ul>																						
○内容・領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>「書くこと」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、1.00で、全国平均正答率と同等である。(佐賀市34.4)(全国34.4)</li> <li>「読むこと」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、1.00で、全国平均正答率と同等である。(佐賀市57.3)(全国57.3)</li> </ul>																						
○グラフ	<table border="1"> <caption>グラフのデータ</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国語B</td> <td>0.99</td> </tr> <tr> <td>関心(観点)</td> <td>1.00</td> </tr> <tr> <td>話す・聞く(観点)</td> <td>0.96</td> </tr> <tr> <td>書く(観点)</td> <td>1.00</td> </tr> <tr> <td>読む(観点)</td> <td>1.00</td> </tr> <tr> <td>言語(観点)</td> <td>0.99</td> </tr> <tr> <td>話す・聞く(領域)</td> <td>0.96</td> </tr> <tr> <td>書く(領域)</td> <td>1.00</td> </tr> <tr> <td>読む(領域)</td> <td>1.00</td> </tr> <tr> <td>伝統(領域)</td> <td>0.99</td> </tr> </tbody> </table>	項目	割合	国語B	0.99	関心(観点)	1.00	話す・聞く(観点)	0.96	書く(観点)	1.00	読む(観点)	1.00	言語(観点)	0.99	話す・聞く(領域)	0.96	書く(領域)	1.00	読む(領域)	1.00	伝統(領域)	0.99
項目	割合																						
国語B	0.99																						
関心(観点)	1.00																						
話す・聞く(観点)	0.96																						
書く(観点)	1.00																						
読む(観点)	1.00																						
言語(観点)	0.99																						
話す・聞く(領域)	0.96																						
書く(領域)	1.00																						
読む(領域)	1.00																						
伝統(領域)	0.99																						

■調査結果の分析【成果(強み)】

問題番号	領域	観点	出題のねらい	分 析
A 1－ (3)	伝統	言語	漢字を正しく読む	児童の日常生活に基づいた漢字を読むことができています。
A 1二 (2)	伝統	言語	漢字を正しく書く	児童の日常生活に基づいた漢字を書くことができています。
A 2－	伝統	言語	故事成語の意味と使い方を理解する	児童の興味や関心に応じた場面を多く設けることで、より理解を深めることができた。
A 2二	伝統	言語	故事成語の意味と使い方を理解する	児童の興味や関心に応じた場面を多く設けることで、より理解を深めることができた。
A 6－	書く	書く	複数の事柄を並列の関係で書く	学習や日常生活で繰り返し確認することで、書き慣れることができた。
B 2－	読む	読む	付箋に書かれた内容を関係付けながら、疑問を捉える	クイズ作りなどを通して、問いの文を作ることに慣れることができた。
B 2二	書く	書く	分かったことや疑問に思ったことを関係付けながら、書く	条件に合わせた文章作りの場を設けることで書き慣れることができた。
B 3二	読む	読む	詩の解釈における着眼点の違いを捉える	作者の伝えたい言葉や表現の工夫を見つける活動を繰り返すことで、詩の特質を読み取ることができた。

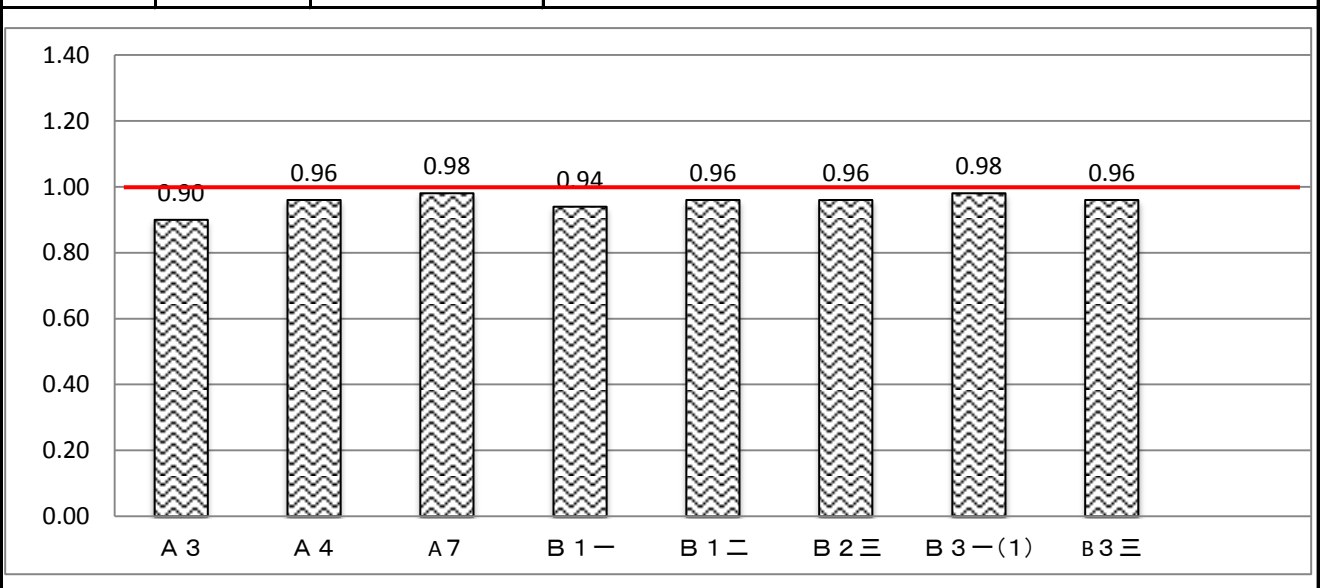
○グラフ



■調査結果の分析【課題(弱み)】

問題番号	領域	観点	出題のねらい	分 析
A 3	書く	書く	情景描写の効果 を捉える	書き方によっては情景描写が心情を表すことを理解することに課題がある。画一的な心情語を使わないで、心情を表す経験を積む必要がある。
A 4	読む	読む	新聞の投書を読み、表現の仕方を捉える	書き手の主張が表れている言葉や表現を捉えることに課題がある。複数の投書を比べて読むことで、様々な意見の表し方の工夫を捉える場面を設けることが考えられる。
A 7	話す・聞く	話す・聞く	話し合いの観点に基づいて情報を関係付ける	目的や提案の理由をふまえた意見を構築する力に課題がある。国語科の学習のみならず、各教科等の学習や日常生活においても、話し合いの内容をメモやノートに整理して話す・聞く場を設けることが考えられる。
B 1一	話す・聞く	話す・聞く	目的に応じて、話し合いの観点を整理する	立場が違う意見の共通点を見つけることに課題がある。様々な状況で、異なった意見を比べる場を設定することが考えられる。
B 1二	話す・聞く	話す・聞く	質問の意図を捉える	質問にどのような意図があるか、想像する力に課題がある。スピーチの後の交流活動を通して、話し手の目的や意図は何か、伝えたいことは何か、共に考えたいことは何かなどを話し合う場を設けることが考えられる。
B 2三	読む	読む	課題を解決するために、目次や索引を活用して、効果的に読む	疑問を解決するための調べ方に課題がある。国語科に限らず、調べ活動の際に目次や索引を活用する体験を多く設けることが考えられる。
B 3一(1)	伝統	言語	二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉える	児童の使用語彙の中に、擬声語・擬態語や、言葉に対する感覚が不十分であることが課題である。比喩・反復・擬声語・擬態語などの表現を使った詩を紹介し合うなどの場を設けることが考えられる。
B 3三	書く	書く	二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く	多くの条件を満たし、自分の考えを加えて文を書くことに課題がある。一つずつ条件を増やして、書き上げる喜びを味わう場を設けることが考えられる。

○グラフ



■調査結果の分析【指導改善について】

<p>○ 相手や目的に応じて自分が伝えたいことを的確に伝える学習活動の充実</p> <p>自分が伝えたいことに沿った複数の資料を取り出し、資料同士を比較したり、言葉や表現方法を吟味したりする力が大切である。また、相手が何を伝えたいのか意図や状況を想像する力も求められる。そのためには、条件に合わせて書く場の充実、相手の意図とともに考える話し合いの場面の設定、互いの意見の共通点・相違点を見つけて関連付ける場を設けることで、想像力・表現力・批判的思考力が高まると考える。スモールステップで条件を積み重ね、少しずつ達成感を味わわせることで、国語への関心・意欲を高めていきたいと考える。</p>
<p>○ 生活時間の使い方と内容の改善</p> <p>テレビやゲームのしすぎは、学力に影響している。たとえばテレビ視聴が1時間より少ない児童や全くゲームをしない児童の平均正答率が高い。また、携帯電話やスマートフォンをもっていない児童の正答率が高い。</p> <p>ただ、テレビのニュースを見たり新聞を読んだりする習慣がある児童は平均正答率が高いことから適切な情報は児童の語彙力や情報収集力・判断力に大きく影響すると考える。テレビや読書の時間とともに何を見るのかの内容も見直しや助言が必要と考える。</p>
<p>○ 学ぶ目的を明確に持つ姿勢の育成</p> <p>家で予習復習をしている児童は平均正答率が高い。また、学習の際にめあてをもって取り組む児童は内容の定着につながっている。ほとんどの児童は、国語がすきと応え、国語の学習は大切だし将来役立つと意識も高い。学校の学習や家庭での学習、両者とも常に学びの目的を持たせることが意欲の向上や探究心を生むと考える。一つ一つの設問に対しても何をきかれているのか応えるための条件は何なのか具体的にポイントを確認し、常に目的をもって取り組む姿勢の育成が必要と考える。</p>

■評価の観点については、以下のように表記しています。 ■内容・領域については、以下のように表記しています。

評価の観点	表記
国語への関心・意欲・態度	関心
話す・聞く能力	話す・聞く
書く能力	書く
読む能力	読む
言語についての知識・理解・技能	言語

内容・領域	表記
話すこと・聞くこと	話す・聞く
書くこと	書く
読むこと	読む
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	伝統